



2026年 6月号

発行者

天理市人権問題啓発活動推進本部

本部長 天理市長

事務局 人権センター

## 性の多様性について

性の多様性について報道されることが増えてきています。すでにご承知の方も多くなったとは思いますが、主に以下のようなものがあります。

L	Lesbian レズビアン	恋愛や性の関心が同性に向かう女性
G	Gay ゲイ	恋愛や性の関心が同性に向かう男性
B	Bisexual バイセクシャル	恋愛や性の関心が男性・女性に向かう人
T	Transgender トランスジェンダー	自身が認識している性別と、出生時に割り当てられた法律上の性別が一致しない人
Q	Questioning クエスチョニング	自分の性のあり方が、自分でもよく分からず迷っている人や、特に決めたくない人

しかし上記は、たくさんある性のあり方の一部であり、はっきりと分かれて示すことができないものです。つまり、私たちが考えなければいけないことは、「多様な性が存在する」ということです。

苦しんでいたり、悩んでいたり、家族・友人にも打ち明けられないでいる人もきっとたくさんいると思います。そのためにも、悩んでいる方が身近にいれば、まずはゆっくり話を聞きましょう。そして、決してその話を否定しないことです。それが「知る」ことになり、多様な性を認め合う第一歩になります。

天理市では、「性の多様性の尊重に関する条例」を2024年4月に施行しました。まずは一人ひとりが多様な性が存在することを知り、誰もが「自分らしく」生きていくことができる社会を目指しましょう。



## 災害に起因する人権侵害

2011(平成23)年3月11日に東日本大震災が発生してから15年が経ちました。多くの方が、津波が何度も押し寄せる映像を見て、被害の甚大さに衝撃を受けたと思います。

その後も地震や豪雨、山林火災など多くの災害が生じ、いずれもその地域で暮らす方々への影響は計り知れないものがあります。

そういった災害時に懸念されることのひとつに、不確かな情報の拡散やインターネット上の人権侵害が発生するリスクが高まるということがあります。

災害時におけるSNSの利用はリアルタイムでの情報収集や安否確認、救援要請など極めて有益である反面、他者の興味をひいたり、衝撃的な内容であるものが拡散されやすい傾向にあります。例えば、日本で発生した災害ではない映像を加工したり、地震で動物園の檻が破損して猛獣が逃げ出したなど、デマや根拠のない情報をSNSに掲載、拡散されたことがあります。そこがSNS利用の難しいポイントです。

もし、そのような情報が届けられても、「この情報は本当かな?」と冷静に考えることが大切です。日頃から心に留めおき、情報の正確性を確かめるようにしましょう。

# てんいち先生

